

事務事業マネジメントシート（令和5年度実施分）

事業名	グローバル人材育成・留学生支援事業		背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か	
所管局	総務企画局	所管課		国際政策課	地域の競争力を強化し活性化を図る上で、地域やわが国を支える人材として、また、世界で活躍できる高度人材、あるいは出身国と福岡との橋渡しをする人材として、留学生が重要な存在となっている。そこで、優秀な留学生の本市への集積を促進するとともに、日本人留学生を含めて、グローバル人材として育成し、地域における活用を図る必要があったため。
根拠法令	なし				
開始年度	昭和63年度	行政計画		なし	

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか 留学生・既卒留学生 帰国した留学生 留学を検討している海外の学生 日本人大学生 市民 地元企業
事業目的	対象をどのような状態にしたいのか 留学生をグローバル人材として育成し、活用・定着を促進するとともに、福岡ゆかりのグローバル人材のネットワークの強化・拡大を図り、「グローバル人材が集い・活躍するまち」を目指していくことで、都市としての国際競争力において優位性を発揮し、都市間競争に打ち勝っていく。

実施内容(事業手段)	令和5年度、前年度の改善方を踏まえ、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか ○留学生等を対象とした有償の長期就業体験(インターンシップ)事業 福岡での就職を希望する留学生等を、在留資格の規制緩和も活用して、留学生採用を希望する地元企業に派遣するインターンシップ事業を実施し、留学生等の地元企業への就職を支援した。 ○「福岡市国際財団奨学金」による優秀な人材の福岡への呼び込み ○オンライン留学促進セミナーや留学PR動画を活用した留学生の福岡への呼び込み ○留学生の育成と活用・定着を促進する産学官連携の枠組み「グローバルコミュニティFUKUOKA推進プラットフォーム」の運営 ○経済界、大学、県などと構成する「福岡県留学生サポートセンター」における海外リクルート活動や就職支援の実施 ○スタートアップ奨学金事業 日本人大学生の海外留学と地元での創業・就職の実現に向けた支援を実施した。
------------	--

成果(見直し判断基準)	どのような状態になったら事業を見直し(終了)するのか 留学生の市内での定着が進み、また、福岡ゆかりのグローバル人材のネットワークが世界中で強化・拡大され、福岡市が「グローバル人材が集い・活躍するまち」となることを目指して事業を継続する。
-------------	---

【ロジックモデル・指標の達成度】

ロジックモデル	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか)	②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか)	③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか)	④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか)	
	・留学促進セミナー等に参画し、福岡への留学生の呼び込みを実施する。 ・留学生と市民の交流を促進する。 ・留学生等を対象とした地元企業でのインターンシップ事業を実施する。 ・本市留学経験者を含む留学生とのネットワーク構築を行う。 ・日本人大学生の留学を促進する。	・留学を検討している海外の学生が福岡市を知り、福岡市に留学する留学生が増加する。 ・留学生に対する市民の理解と協力を得られる。 ・既卒留学生等が、インターンシップ事業により、自分のスキル・志望に合った地元企業と出会い、双方の合意のもとに就職することができる。 ・帰国した留学生とのネットワークにより、交流活動が活発化する。 ・日本人大学生が海外に留学し、グローバル人材として育成される。	・福岡市で就職する留学生が増加する。 ・地域での留学生の人材活用を行うことができる。 ・本市留学経験者が、福岡市に愛着を持ち、福岡市の発展に貢献する。 ・日本人大学生がグローバル人材として福岡市で就職または創業する。	・福岡市が「グローバル人材が集い・活躍するまち」となっている。 ・産学官が連携して、グローバル人材の育成に取り組んでいる。 ・福岡ゆかりのグローバル人材ネットワークが世界中に広がっている。	
	指標の内容 ※②結果アウトプットに対応した指標を設定	実績	目標	実績	目標
	年度	R4年度	R5年度	R6年度	最終年度
福岡市内の大学・短大に在籍する留学生数(各年5月1日時点)	目標 4,103	4,353	R5年度	R6年度	
実績	3,291	3,633	—	8,000	
達成率	80.2%	83.5%	4,353	8,000	
目標	R 年度	R 年度	R 年度	R 年度	
実績	R 年度	R 年度	R 年度	R 年度	
達成率	R 年度	R 年度	R 年度	R 年度	

基本計画(政策推進プラン)				
事業区分	重点		施策成果指標	
施策コード	主	8-5-1		
	再	—		
分野別目標	国際競争力を有し、アジアのモデル都市となっている			
施策	グローバル人材の育成と活躍の場づくり			
事業群	グローバル人材の育成・集積			
行政運営プラン				
取組方針	—			
推進項目	—			

事業費(千円)			
令和5年度決算額(見込額)			
歳入	歳出	11,729	
	特定財源	3,840	
	一般財源	7,889	
前年度決算額・翌年度予算額			
歳入	年度	R4	R6
	歳出	8,846	14,551
	特定財源	2,332	5,231
	一般財源	6,514	9,320

事務事業マネジメントシート（令和5年度実施分）

事業名	在住外国人の生活環境整備事業			背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か			
所管局	総務企画局	所管課	国際政策課		国際化の進展に伴い、在住外国人の生活情報の収集・提供を中心に事業開始。生活者としての外国人が増加しており、これまでの生活情報の提供等に加え、地域における外国人住民との交流を促進していく必要がある。			
根拠法令	なし							
開始年度	昭和61年度	行政計画	なし					

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか ・在住外国人(生活者としての外国人) ・地域住民 ・在住外国人の支援者(日本語ボランティア等)
事業目的	対象をどのような状態にしたいのか ○地域における外国人住民との交流が促進され、相互に理解している。 ○在住外国人 ・日本の生活ルール・マナーや日本の制度を理解している。必要な情報にアクセスできている。生活に必要な日本語を学び、コミュニケーションができていく。 ○日本人(地域住民) ・海外の多様な文化を理解し、外国人とも隔たり無く交流できている。

実施内容(事業手段)

令和5年度、前年度の改善方を踏まえ、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか
○多言語・やさしい日本語による情報提供(生活ルール・マナー紹介) ・電話通訳、映像通訳の一括導入 ・AI多言語音声翻訳アプリの導入 ・転入手続き時の生活ガイダンスの実施及びウェルカムキットの配付 ・音声による情報提供(ラジオ、ポッドキャスト(R2~)) ・やさしい日本語の活用推進(市HP・SNS) ○地域における外国人住民との交流支援 ○日本語教育の推進 ・市民センターにおける日本語学習支援[東・中央・城南・早良・西区] ・オンライン日本語教室の試行実施

成果(見直し判断基準)

どのような状態になったら事業を見直し(終了)するのか
○福岡市の在住外国人数は増加しており、新たに福岡へ転入する外国人に対し、生活ルール・マナーの周知や地域との交流を通じた相互理解の促進など、継続した取組みが必要であると考えている。

【ロジックモデル・指標の達成度】

ロジックモデル	①活動アウト (どんな活動を行うのか)	②結果アウト (活動の結果、どうなるのか)	③中間アウト (その結果、対象はどうなるのか)	④最終アウト (その結果、市としてどうなるのか)																																																																				
	・生活情報や生活ルール・マナー等の情報提供 ・日本語教室の開催。 ・地域における外国人住民との交流支援	・在住外国人に生活情報が届き、生活ルール・マナーを理解。 ・在住外国人が日本語を学ぶ。 ・外国人住民と交流する。	・外国人が生活ルール・マナーを守り、日本の生活・文化に慣れる。 ・外国人が日本語を習得し、日本人とコミュニケーションができるようになる。 ・外国人住民との相互理解が進む。	・相互理解が進み、外国人にも住みやすい活動しやすいまちになる。 ・外国人にも住みやすいまち、外国人材及び留学生の誘導、定着を下支えし、福岡市の活性化につながる。																																																																				
	指標の内容	実績	目標	指標の内容																																																																				
	※②結果アウトに対応した指標を設定 地域における外国人住民との交流支援した校区数(事業実施済のみ計上) 市主催日本語教室の延べ受講者数	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th>年度</th> <th>R4年度</th> <th>R5年度</th> <th>R6年度</th> <th>最終年度</th> </tr> <tr> <td>目標</td> <td>20</td> <td>20</td> <td>20.0</td> <td>R 年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>4</td> <td>11</td> <td>20.0</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td>20.0%</td> <td>55.0%</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>目標</td> <td>4,000</td> <td>4,000</td> <td>—</td> <td>R 年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>3,171</td> <td>4,553</td> <td>4,000.0</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td>79.3%</td> <td>113.8%</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </table>	年度	R4年度	R5年度	R6年度	最終年度	目標	20	20	20.0	R 年度	実績	4	11	20.0	—	達成率	20.0%	55.0%	—	—	目標	4,000	4,000	—	R 年度	実績	3,171	4,553	4,000.0	—	達成率	79.3%	113.8%	—	—	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th>年度</th> <th>R4年度</th> <th>R5年度</th> <th>R6年度</th> <th>最終年度</th> </tr> <tr> <td>目標</td> <td>未調査</td> <td>未調査</td> <td>—</td> <td>R 年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>※次回はR6</td> <td>※次回はR6</td> <td>95%以上</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td>年度の予定</td> <td>年度の予定</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>目標</td> <td>40,000</td> <td>43,000</td> <td>—</td> <td>R6年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>40,959</td> <td>44,651</td> <td>45,000</td> <td>同左</td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td>102.4%</td> <td>103.8%</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </table>	年度	R4年度	R5年度	R6年度	最終年度	目標	未調査	未調査	—	R 年度	実績	※次回はR6	※次回はR6	95%以上	—	達成率	年度の予定	年度の予定	—	—	目標	40,000	43,000	—	R6年度	実績	40,959	44,651	45,000	同左	達成率	102.4%	103.8%	—
年度	R4年度	R5年度	R6年度	最終年度																																																																				
目標	20	20	20.0	R 年度																																																																				
実績	4	11	20.0	—																																																																				
達成率	20.0%	55.0%	—	—																																																																				
目標	4,000	4,000	—	R 年度																																																																				
実績	3,171	4,553	4,000.0	—																																																																				
達成率	79.3%	113.8%	—	—																																																																				
年度	R4年度	R5年度	R6年度	最終年度																																																																				
目標	未調査	未調査	—	R 年度																																																																				
実績	※次回はR6	※次回はR6	95%以上	—																																																																				
達成率	年度の予定	年度の予定	—	—																																																																				
目標	40,000	43,000	—	R6年度																																																																				
実績	40,959	44,651	45,000	同左																																																																				
達成率	102.4%	103.8%	—	—																																																																				

基本計画(政策推進プラン)			
事業区分	重点		施策成果指標
施策コード	主	8-8-1	
	再	—	
分野別目標	国際競争力を有し、アジアのモデル都市となっている		
施策	アジアをはじめ世界の人にも暮らしやすいまちづくり		
事業群	外国人にも住みやすく活動しやすいまちづくり(多文化共生の推進)		
行政運営プラン			
取組方針	2ぬくもり 多様なニーズに寄り添うサービスの提供		
推進項目	④市民や企業などの共働・連携		

事業費(千円)			
令和5年度決算額(見込額)			
歳出		30,995	
歳入	特定財源	1,195	
	一般財源	29,800	
前年度決算額・翌年度予算額			
年度		R4	R6
歳出		30,803	51,154
歳入	特定財源	1,382	9,618
	一般財源	29,421	41,536

事務事業マネジメントシート（令和5年度実施分）

事業名	ユニバーサル都市・福岡の推進			背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か 少子高齢化や都市のグローバル化などに伴い、本市に暮らし、訪れる様々な人々の価値観やライフスタイルに対応するまちづくりが求められている。
所管局	総務企画局	所管課	企画調整部企画課		
根拠法令	なし				
開始年度	平成23年度	行政計画	なし		
事業概要	【事業概要】				

対象	誰(何)を対象として行うのか 市民、地域、企業、学校など
事業目的	対象をどのような状態にしたいのか 市民等が、ユニバーサルデザインの考え方を理解し、誰もが思いやりを持ち、すべての人にやさしいまちになっている。

実施内容(事業手段)	令和5年度、前年度の改善方を踏まえ、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか ・ユニバーサルデザインの理念を踏まえた落語会による普及啓発 ・移動時を意識した公共交通機関におけるマナーアップポスターの制作・掲出 ・SNS × ラジオ「ユニバーサルデザインマンス！」の実施 ・「ユニバーサルデザイン体験会」の実施 ・福岡市公式SNSアカウントによる市の取組みの紹介 ・福岡版ユニバーサルマナー検定の実施 ・市職員研修(eラーニング)の実施 ・アウトリーチ活動
------------	--

成果(見直し判断基準)	どのような状態になったら事業を見直し(終了)するのか みんながやさしい、みんなにやさしい「ユニバーサル都市・福岡」の実現を目指し、継続して事業を実施していく。
-------------	--

【ロジックモデル・指標の達成度】

ロジックモデル	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか)		②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか)				③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか)		④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか)			
		<ul style="list-style-type: none"> 民間のノウハウを用いた普及啓発活動 SNSなどで市や企業・団体の取り組みを発信 小学生用の教則本の改訂・Web化、出前講座の実施 市職員向け研修の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 市民等がユニバーサル都市・福岡を理解する 小学生がユニバーサルデザインについて学ぶ 市職員がユニバーサルデザインについて理解し、業務に取り入れる 	<ul style="list-style-type: none"> 行政だけでなく、市民・地域、企業、学校などがユニバーサルデザインの大切さについて十分に理解し、具体的な取組みを行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> みんながやさしい、みんなにやさしい「ユニバーサル都市・福岡」が実現し、市民の生活の質や市の魅力が向上する。 							
	指標の内容 ※②結果アウトプットに対応した指標を設定	年度	実績		目標		指標の内容 ※③中間アウトカムに対応した指標を設定	年度	実績		目標	
ユニバーサル都市・福岡のロゴマークの掲出箇所数	R4年度	R5年度	R6年度	最終年度	成果の指標(KPI)	ユニバーサルデザインの概念の理解度	R4年度	R5年度	R6年度	最終年度	R6年度	
	目標	1000.0	1000.0	—	R年度	目標	—	—	70.0	70.0	R6年度	
	実績	7363.0	7461.0	—	—	実績	53.2	53.7	70.0	70.0	R6年度	
	達成率	736.3%	746.1%	—	—	達成率	—	—	—	—	R6年度	
	目標	—	—	—	R年度	ユニバーサルデザインの取組みへの評価	目標	—	—	65.0	R6年度	
	実績	—	—	—	—	実績	41.0	52.9	65.0	65.0	R6年度	
	達成率	—	—	—	—	達成率	—	—	—	—	R6年度	
	目標	—	—	—	R年度	「ユニバーサル都市・福岡」のロゴマークの認知度	目標	—	—	65.0	R6年度	
	実績	—	—	—	—	実績	51.8	46.5	65.0	65.0	R6年度	
	達成率	—	—	—	—	達成率	—	—	—	—	R6年度	

基本計画(政策推進プラン)				
事業区分	重点		施策成果指標	
施策コード	主	1-1-1		
	再	—		
分野別目標	一人ひとりが心豊かに暮らし、元気に輝いている			
施策	ユニバーサルデザインの理念によるまちづくり			
事業群	ユニバーサル都市・福岡の推進			
行政運営プラン				
取組方針	2ぬくもり 多様なニーズに寄り添うサービスの提供			
推進項目	④市民や企業などとの共働・連携			

事業費(千円)			
令和5年度決算額(見込額)			
歳入	歳出	7,944	
	特定財源	0	
	一般財源	7,944	
前年度決算額・翌年度予算額			
歳入	年度	R4	R6
	歳出	8,316	9,893
	特定財源	0	0
一般財源	8,316	9,893	

事務事業マネジメントシート（令和5年度実施分）

事業名	農山漁村地域など市街化調整区域の活性化			背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か 農山漁村地域など市街化調整区域は、自然とまちの調和がとれたコンパクトな都市を形成するうえで大変重要な役割を担っているが、人口減少や高齢化の進展等に伴い、農林水産業の振興やコミュニティの維持など様々な課題を抱えており、活性化の取組みが必要となっている。			
所管局	総務企画局	所管課	企画調整部					
根拠法令	なし							
開始年度	平成27年度	行政計画	福岡市第9次基本計画					

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか 農山漁村地域など市街化調整区域
事業目的	対象をどのような状態にしたいのか ・地域において活性化に向けた主体的な取組みが進められている。 ・農山漁村地域でのビジネス展開について、事業者からの相談・提案などが行われている。 ・地域住民と事業者のネットワークが生まれ、事業化に向けたマッチングが行われている。

実施内容(事業手段)	令和5年度、前年度の改善方を踏まえ、目的達成に向けてどのような方法で行ったのか ①地域主体のまちづくり活動の支援 関係部局が連携し、地域の活性化に向けた具体的な活動(産直市など)の支援を行った。 ②空き家・空き地等の発掘 民間事業者の進出先となる空き家・空き地の発掘を目的として、志賀島・北崎の物件情報の収集・整理及び事業者ヒアリングを行った。 ③事業者へのヒアリング(進出意向等) 規制緩和の制度内容や地域の魅力について情報提供を行い、民間事業者の需要喚起を行った。 ④地域と事業者のマッチング 進出意向のある事業者と地域の対話の場を設定した。
-------------------	---

成果(見直し判断基準)	どのような状態になったら事業を見直し(終了)するのか 地域資源を活かした新たなビジネスが生まれること等により、農林水産業・観光業などの地域産業の振興が図られるとともに、定住化が促進され、地域の活性化により、人口減少・少子高齢化など課題が解消された状態。
--------------------	---

【ロジックモデル・指標の達成度】

ロジックモデル	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか)	②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか)	③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか)	④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか)																																																																																
	<ul style="list-style-type: none"> 地域主体のまちづくり活動の支援 空き家・空き地等の発掘 事業者へのヒアリング(進出意向等) 地域と事業者のマッチング 	<ul style="list-style-type: none"> 地域住民の活性化に向けた意欲が向上する。 農山漁村地域に関心を示す事業者等の進出先が確保される。 事業者からの対象地域への関心が高まる。 地域住民と事業者が繋がる機会が生まれる。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域において活性化に向けた主体的な取組みが進められている。 地域の空き地・空き家の情報が随時集約される。 農山漁村地域でのビジネス展開について、事業者からの相談・提案などが行われている。 地域住民と事業者のネットワークが生まれ、事業化に向けたマッチングが行われている。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域資源を活かした新たなビジネスが生まれ、農林水産業や観光業の振興など、地域の活性化が図られる。 新たなビジネスが地域の雇用を生み、定住人口が増加する。 																																																																																
	指標の内容	実績	目標	実績																																																																																
	※②結果アウトプットに対応した指標を設定 地域において実施される会合等への参加件数 事業者ヒアリング等の実施	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th>年度</th> <th>R4年度</th> <th>R5年度</th> <th>R6年度</th> <th>最終年度</th> </tr> <tr> <td>目標</td> <td>10.0</td> <td>10.0</td> <td></td> <td>R 年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>14.0</td> <td>15.0</td> <td>10.0</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td>140.0%</td> <td>150.0%</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	年度	R4年度	R5年度	R6年度	最終年度	目標	10.0	10.0		R 年度	実績	14.0	15.0	10.0	—	達成率	140.0%	150.0%			<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th>年度</th> <th>R4年度</th> <th>R5年度</th> <th>R6年度</th> <th>最終年度</th> </tr> <tr> <td>目標</td> <td>30.0</td> <td>30.0</td> <td></td> <td>R 年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>27.0</td> <td>20.0</td> <td>30.0</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td>90.0%</td> <td>66.7%</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	年度	R4年度	R5年度	R6年度	最終年度	目標	30.0	30.0		R 年度	実績	27.0	20.0	30.0	—	達成率	90.0%	66.7%			※③中間アウトカムに対応した指標を設定 地域と事業者のマッチング支援数 制度活用による施設立地申請の件数	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th>年度</th> <th>R4年度</th> <th>R5年度</th> <th>R6年度</th> <th>最終年度</th> </tr> <tr> <td>目標</td> <td>2.0</td> <td>2.0</td> <td></td> <td>R 年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>3.0</td> <td>2.0</td> <td>2.0</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td>150.0%</td> <td>100.0%</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th>年度</th> <th>R4年度</th> <th>R5年度</th> <th>R6年度</th> <th>最終年度</th> </tr> <tr> <td>目標</td> <td>1.0</td> <td>1.0</td> <td></td> <td>R 年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>3.0</td> <td>2.0</td> <td>1.0</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td>300.0%</td> <td>200.0%</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	年度	R4年度	R5年度	R6年度	最終年度	目標	2.0	2.0		R 年度	実績	3.0	2.0	2.0	—	達成率	150.0%	100.0%			年度	R4年度	R5年度	R6年度	最終年度	目標	1.0	1.0		R 年度	実績	3.0	2.0	1.0	—	達成率	300.0%	200.0%	
年度	R4年度	R5年度	R6年度	最終年度																																																																																
目標	10.0	10.0		R 年度																																																																																
実績	14.0	15.0	10.0	—																																																																																
達成率	140.0%	150.0%																																																																																		
年度	R4年度	R5年度	R6年度	最終年度																																																																																
目標	30.0	30.0		R 年度																																																																																
実績	27.0	20.0	30.0	—																																																																																
達成率	90.0%	66.7%																																																																																		
年度	R4年度	R5年度	R6年度	最終年度																																																																																
目標	2.0	2.0		R 年度																																																																																
実績	3.0	2.0	2.0	—																																																																																
達成率	150.0%	100.0%																																																																																		
年度	R4年度	R5年度	R6年度	最終年度																																																																																
目標	1.0	1.0		R 年度																																																																																
実績	3.0	2.0	1.0	—																																																																																
達成率	300.0%	200.0%																																																																																		

基本計画(政策推進プラン)				
事業区分	重点			施策成果指標
施策コード	主	4-4-3		
	再	—		
分野別目標	人と地球にやさしい、持続可能な都市が構築されている			
施策	まちと自然が調和した福岡型のコンパクトな都市づくり			
事業群	豊かな自然を活かした市街化調整区域の活性化			
行政運営プラン				
取組方針	—			
推進項目	—			

事業費(千円)			
令和5年度決算額(見込額)			
歳入	歳出	9,950	
	特定財源	0	
	一般財源	9,950	
前年度決算額・翌年度予算額			
歳入	年度	R4	R6
	歳出	5,698	10,000
	特定財源	0	0
	一般財源	5,698	10,000

事務事業マネジメントシート（令和5年度実施分）

事業名	都心のまちづくりの推進			背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か
所管局	総務企画局	所管課	企画調整部企画課		福岡都心部の更なる賑わい創出や魅力向上をおこなう必要性があったため。
根拠法令	なし				
開始年度	平成17年度	行政計画	なし		

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか 都心部	実施内容(事業手段)	令和5年度、前年度の改善方策を踏まえ、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか 天神地区・博多地区において、地域・企業などが会員となっているエリアマネジメント団体(天神地区:We Love 天神協議会、博多地区:博多まちづくり推進協議会)との共働により、魅力的なイベントや回遊性向上、来街者のおもてなし、まちの美化、防犯・防災活動等を行うなど、都心部のにぎわい創出や魅力の向上、課題解決などに取り組んだ。 また、街路灯広告バナーの掲出に伴う収益や公開空地等を活用したイベントの収益の一部をエリアマネジメント団体の収入とするなど、エリアマネジメント団体の自主財源の確保に取り組んだ。	成果(見直し判断基準)	どのような状態になったら事業を見直し(終了)するのか エリアマネジメント団体が自ら十分な自主財源を継続的に確保できるような状態。
事業目的	対象をどのような状態にしたいのか 官民共働により、都心部の魅力や回遊性の向上、美しい景観の形成や安全・安心の空間を創出する。				

【ロジックモデル・指標の達成度】

ロジックモデル	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか)	②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか)	③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか)	④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか)							
	エリアマネジメント団体に負担金を支出するとともに、エリアマネジメント団体のまちづくり事業に対し支援を行う。	エリアマネジメント団体による、まちづくりイベント、集客促進活動、安全安心・環境向上活動が進む。 また、エリアマネジメント団体の自主財源が拡大する。	福岡都心部の価値や魅力の向上とエリアマネジメント団体(会員企業)の運営の改善の好循環が生まれる(エリアマネジメント団体の活動が活発になり、自立的に多様な活動を行えるようになる)。	福岡都心部の価値や魅力が高まり続け、福岡市全体の競争力、集客力を牽引する。							
	指標の内容 ※②結果アウトプットに対応した指標を設定	実績	目標	実績							
	活動の指標	年度	R4年度	R5年度	R6年度	最終年度	成果の指標(KPI)	年度	R4年度	R5年度	R6年度
エリアマネジメント団体数	目標	2	2	2	R7年度	福岡都心部は賑わいがあり訪れたい魅力があると感じる市民の割合	目標	80.0	80.0	80.0	R7年度
	実績	2	2	2	—		実績	79.3	79.0	80.0	—
	達成率	100.0%	100.0%				達成率	99.1%	98.8%		
	目標				R 年度		目標				R 年度
	実績						実績				
	達成率						達成率				

基本計画(政策推進プラン)				
事業区分	重点		施策成果指標	
施策コード	主	4-6-2		
	再	—		
分野別目標	人と地球にやさしい、持続可能な都市が構築されている			
施策	ストックの活用による地区の価値や魅力の向上			
事業群	エリアマネジメントの推進			
行政運営プラン				
取組方針	—			
推進項目	—			

事業費(千円)				
令和5年度決算額(見込額)				
歳入	歳出		24,000	
	歳入	特定財源	9,600	
		一般財源	14,400	
前年度決算額・翌年度予算額				
歳入	年度		R4	R6
	歳出		24,186	24,180
	歳入	特定財源	7,200	9,600
		一般財源	16,986	14,580

事務事業マネジメントシート（令和5年度実施分）

事業名	産学官民連携による国際競争力強化			背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か アジアと日本の玄関口であり、暮らしの質の高さが世界から評価されている福岡であるが、今後は人口減少などにより経済成長が衰退する見込みがある。 今後も、基本計画の「福岡都市圏として発展し、広域的な役割を担う」という基本戦略を推進し、福岡都市圏の持続的な成長を図るために、産学官民が一体となって、国際競争力を強化して行く必要がある。			
所管局	総務企画局	所管課	企画課					
根拠法令	なし							
開始年度	平成23年度	行政計画	福岡市第9次基本計画					

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか 福岡都市圏	実施内容(事業手段)	令和5年度、前年度の改善方を踏まえ、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか 地域戦略を推進していくための産学官連携組織である「福岡地域戦略推進協議会」に負担金を支出し、地域の成長を実現する質の高いプロジェクトの検討経費、コンソーシアムの組成支援、市民や会員向けシンポジウムの開催経費などの支援を行った。なお、福岡市は正会員として参画している。(負担金内訳: 正会員年会費: 300千円、協賛金等: 34,700千円)	成果(見直し判断基準)	どのような状態になったら事業を見直し(終了)するのか 福岡都市圏が国際競争力を備えたアジアで最も持続可能な地域となる。
事業目的	対象をどのような状態にしたいのか ・福岡地域戦略推進協議会(FDC)において、産学官民が一体となって策定した「地域戦略」を推進し、国際競争力を備えたアジアで最も持続可能な地域となっている。				

【ロジックモデル・指標の達成度】

ロジックモデル	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか)	②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか)	③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか)	④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか)																																																												
	・福岡地域戦略推進協議会が策定した地域戦略を推進するために、3つの部会を中心としてプロジェクト等の構築を行う。 ・イベントや情報発信を通じて、市民との共有を行いながら戦略を推進していく。	・部会などでプロジェクトが創出される。 ・地域戦略の市民への共有が図られる。	・次々とプロジェクトが構築・推進されることにより、域内外から人と投資が呼び込まれ、戦略の目標が達成される。	・福岡都市圏が東アジアのビジネスハブとして、日本・中国・韓国・台湾などのビジネス交流拠点となり、多様な人材が訪れ、働き・暮らす、国際競争力を備えたアジアで最も持続可能な地域となっている。																																																												
	指標の内容	実績	目標	指標の内容	実績	目標																																																										
	※②結果アウトプットに対応した指標を設定 ※FDCの取組みは民主導であることから、各年の目標数値を設定するのは困難	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><th>年度</th><th>R4年度</th><th>R5年度</th><th>R6年度</th><th>最終年度</th></tr> <tr><td>目標</td><td></td><td></td><td></td><td>R 年度</td></tr> <tr><td>実績</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>達成率</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>	年度	R4年度	R5年度	R6年度	最終年度	目標				R 年度	実績					達成率					<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><th>年度</th><th>R4年度</th><th>R5年度</th><th>R6年度</th><th>最終年度</th></tr> <tr><td>目標</td><td></td><td></td><td></td><td>R 年度</td></tr> <tr><td>実績</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>達成率</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>	年度	R4年度	R5年度	R6年度	最終年度	目標				R 年度	実績					達成率					<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><th>年度</th><th>R4年度</th><th>R5年度</th><th>R6年度</th><th>最終年度</th></tr> <tr><td>目標</td><td></td><td></td><td></td><td>R 年度</td></tr> <tr><td>実績</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>達成率</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>	年度	R4年度	R5年度	R6年度	最終年度	目標				R 年度	実績					達成率				
年度	R4年度	R5年度	R6年度	最終年度																																																												
目標				R 年度																																																												
実績																																																																
達成率																																																																
年度	R4年度	R5年度	R6年度	最終年度																																																												
目標				R 年度																																																												
実績																																																																
達成率																																																																
年度	R4年度	R5年度	R6年度	最終年度																																																												
目標				R 年度																																																												
実績																																																																
達成率																																																																

基本計画(政策推進プラン)				
事業区分	重点			施策成果指標
施策コード	主	6-1-1		
	再	7-5-3	7-6-1	
分野別目標	経済活動が活発で、たくさんの働く場が生まれている			
施策	産学官連携による、知識創造型産業の振興			
事業群	知識創造型産業の振興			
行政運営プラン				
取組方針	2ぬくもり 多様なニーズに寄り添うサービスの提供			
推進項目	④市民や企業などとの共働・連携			

事業費(千円)			
令和5年度決算額(見込額)			
歳入	歳出	35,000	
	特定財源	0	
	一般財源	35,000	
前年度決算額・翌年度予算額			
歳入	年度	R4	R6
	歳出	35,000	35,000
	特定財源	0	0
	一般財源	35,000	35,000

事務事業マネジメントシート（令和5年度実施分）

事業名	国際視察・研修受入事業			背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か
所管局	総務企画局	所管課	国際部アジア連携課		事業を開始した当時のアジア各国は、都市が成長する過程において、環境汚染、水不足、少子高齢化などの様々な問題が起きている状況であった。そのような中、本市では、ゴミ・環境問題、水不足等の課題解決を続けていたことから、本市のノウハウや経験をアジア地域の諸問題の解決に貢献したいと考えたもの。
根拠法令	なし				
開始年度	平成21年度	行政計画	なし		

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか アジアの各国	実施内容(事業手段)	令和5年度、前年度の改善方を踏まえ、目的達成に向けてどのような方法で行ったのか ＜実施主体＞ 福岡市と福岡アジア都市研究所(URC)と覚書を締結した上で、役割分担を決めて事業を実施している。(全額負担金事業) ＜5年度の実施内容＞ ・感染症に伴う入国制限の緩和に伴い、令和5年度より対面での視察受入を本格的に再開。受入人数は減少となったものの、案件数は前年度より増加となった。 ・研修の充実に向けて、国内外への広報の充実強化を行った。(メールでの広報、URCホームページ掲載内容の充実、国際視察・研修ガイドの更新等)	成果(見直し判断基準)	どのような状態になったら事業を見直し(終了)するのか 本事業は政策推進プランに位置付けられている事業であることから、基本計画の改定時期(令和7年)に合わせて、本事業の在り方を検討する。
事業目的	対象をどのような状態にしたいのか ○本市の持っている知識や技術を学び、自国の課題解決に結びつけることができる。 ○研修を通じて、福岡市との繋がりが生まれ、本市事業やビジネスに活かされている。 ○アジア各国における福岡市の知名度があがり、福岡市への来訪が増えている。				

【ロジックモデル・指標の達成度】

ロジックモデル	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか)	②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか)	③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか)	④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか)					
	・広報先の掘り起こしを行う ・アジアの国々の関係者に事業の案内を行う ・市内の関係機関等を通じて事業の案内を行う ・URCのホームページに研修実績を掲載する ・受入局(所管課)の情報を収集し、国際・視察研修ガイドの更新(見直し)を行う。	・アジアの国々の関係者が事業案内やURCのホームページを通して、本事業の存在を知る。 ・アジアの国々からURCに研修の相談がある。	・相談者と受入局(所管課)間の調整を行い、受け入れが決定する ・研修を通じて、福岡市の知識や技術を学ぶ ・研修を通じて、福岡市の関係者と繋がりが生まれる ・来福することで、福岡市の自然や文化等を知る	・アジアの国々が福岡市の知識や技術を学び、自国の課題解決に結びつけることができる。 ・研修を通じて、アジアの国々と福岡市との繋がりが生まれ、本市事業やビジネスに活かされる。 ・アジア各国における福岡市の知名度があがり、福岡市への来訪が増える。					
	指標の内容 ※②結果アウトプットに対応した指標を設定	実績	目標	成果の指標(KPI)	指標の内容 ※③中間アウトカムに対応した指標を設定	実績	目標		
	年度	R4年度	R5年度	R6年度	最終年度	年度	R4年度	R5年度	R6年度
URCで相談を受けた件数	目標	—	—	R 年度	視察研修受入人数(オンライン含む)	目標	1,700	1,700	R6年度
	実績	30	52	—		実績	706	544	1,700
	達成率	—	—	—		達成率	41.5%	32.0%	1,700.0
	目標	—	—	—	受講者の満足度(大変満足+満足)	目標	—	—	R 年度
	実績	—	—	—		実績	86.3%	92.2%	—
	達成率	—	—	—		達成率	—	—	—

基本計画(政策推進プラン)			
事業区分	重点		施策成果指標
施策コード	主	8-6-1	
	再	—	
分野別目標	国際競争力を有し、アジアのモデル都市となっている		
施策	アジアの諸都市などへの国際貢献・国際協力の推進		
事業群	ビジネス展開に向けた国際貢献・国際協力の推進		
行政運営プラン			
取組方針	—		
推進項目	—		

事業費(千円)			
令和5年度決算額(見込額)			
歳出		3,755	
歳入	特定財源	0	
	一般財源	3,755	
前年度決算額・翌年度予算額			
年度		R4	R6
歳出		3,756	3,877
歳入	特定財源	0	0
	一般財源	3,756	3,877